

ただ、そうした中でやはり住民の命をしっかりと守っていくかというような部分の中で、小原局長のほうからの資料の中で、今後の取組の中で公立病院の経営強化ガイドライン、総務省さんのほうからというような資料があったかと思えますけれども、そういう部分でいうと経営強化プランを作らなければいけないというような、これは言い方悪いですが、国がこんな勝手なことを言われても、実態が伴うかという、47都道府県それぞれ事情があって、実は困る部分があるだろうなど。そうはいつでも国にそういう一つの指標的な部分示されると、それぞれの病院において先生方は本当に大変な苦勞している中で、机上での数値的な形では地域医療を守れるのかと、まさに病院の経営でも先ほどそれぞれ示された部分で言えば、人口減少の影響というのは大きいわけですね。そういう部分でいうと、沿岸部含めて人口減少の著しいエリアにおける経営というのは、誰が考えても厳しいというのはそのとおりになってくる。

そうした場合に、やはり岩手の医療で県立病院というのは局長おっしゃるとおり、本当に特徴ある仕組みだなというふうに思っております。これをどう生かすかと、国がこういう形を示してきたとした場合に、これに対応するというか、各それぞれの病院でしっかりプランを作っていただいてというような形では、本当にさらに経営努力とは言ってももの難しい部分あるのだろうと。

提案ですけれども、例えば県立病院全体を黒字病院、赤字病院ある中で、そこをやりくりしながらというのが今の経営上の仕組みの一つとすれば、本体が一つの組織、いわゆる法人というような位置づけで、それぞれの県立病院、今ある既存の病院はまさに一部署というか、という形の中でトータルで一つの法人的な位置づけの中で、国が示す部分にどう対処するかというような形でないと、それぞれ特に沿岸部の病院については先生方も看護師含めて人手不足もそのとおりの中で、一生懸命頑張ってもらっている。これをなかなか生かし切れないことになるのではないかと心配される部分があるので、一つの案ですが、そういう一つの法人的な位置づけの中でというのは考えの中にはないのか、また今後検討していく余地はないのか、いかがなものでしょうか。

○瀧上清会長　お願いいたします。

○小原医療局長　ありがとうございます。総務省が今まで提示しているガイドラインというのは、数年置きに改定がされてきているところでございます。基本的に病院ごとに作れというような指示がある中で、岩手県の場合は今お話があったように、県立病院20ございますので、一体的に黒字病院が赤字病院を抱えながらというか、フォローしながら、

一体で運営しているような状況がございますので、そういう計画で進めていくということで、これまでも進めてきたところであります。

ですので、やはりどうしても不採算部門ですとかありますので、繰入れを入れた中でもなかなか黒字を計上できないという病院が当然ございますので、そういう中で20病院一体で運営していくという方針の下、今までも総務省が言ってきたプランを策定してきているということでございますので、これからもそういう方向でやっていきたいと思っております。

一方で、うちの県立病院の場合は経営計画というものを作っております、それを総務省が言うプランにも該当させているというところでありますが、一方で県の保健医療計画というのをまさに先ほども言いましたように、今策定中でございます。今までの立てつけといたしましては、保健医療計画が作られて、それと一緒に県立病院も検討を進めて、保健医療計画の1年後に経営計画を見直すというような形に策定をし直すということにしていますので、当然保健医療計画の動向を踏まえて、今まさに議論がされているのは、ちゃんと身近な医療は地域で受けられるようにと、ただ一方で人口減少とか医療の高度化、専門化が進んでいるので、県内で高度専門的な医療が受けられるように機能分化とか連携強化をしていきたいと思いますというようなことで、いろいろと立てつけがされているということです。そういうのを踏まえて、県の経営計画も見直していきたいと考えているところであります。

○神田謙一委員 もう一点よろしいですか。

○淵上清会長 はい、どうぞ。

○神田謙一委員 1人でしゃべってあれですけども。

○淵上清会長 いいえ、大丈夫です。どうぞ、お願いします。

○神田謙一委員 先ほど高田病院の阿部院長のほうからもありましたけれども、本当に今の時代、情報を含めて、やはり先生方の仕事を軽減するような仕組みとか在り方とかもやっていかないといけないのだろうと、医師数不足もそのとおり、県のほうでも医師確保を一生懸命やっていますけれども、なかなか厳しい、難しい、実績が伴いにくいという部分があるので、そういう部分でいうと、未来かなえネットだとか、あとほっとつばき等々の取組の紹介もありましたけれども、これをやはり全県下のほうに広げていくみたいな、またこの実効性についても実は住民の方々も知らない部分も多々あるのかなと思うのです。啓発の在り方もあると思うのですけれども、DX的な部分でい

うと、絶対量が多いほうが効率が良いに決まっていますので、それを県全体でどう取り組むかというか、まとめ上げていくかというのにも必要なのかなというふうに思っています。

当町の事例で紹介しておきますと、実はコロナのときなのですが、未来かなえさんが集団接種会場に来ていただきました。そうしたときにタブレット持参してきて、加入されている患者さんが高齢化進んでいますから、高齢者の部分でお薬手帳を忘れましてとかいうのもあるわけです。ところが、タブレットで確認できれば、そこは問題ないという部分で、加入率がまたぼんと上がったというような事例もありますので、啓発の在り方をこれは我々行政の部分でもしっかりやっていかなければいけないなというふうに思っていますけれども、そういうところの連携含めて、できれば県全体でという取組が重要なのかなというふうにも思いますけれども、そこいら辺の検討もよろしく願いしたいなと思います。

○瀧上清会長 どうぞ。

○小原医療局長 医療情報のネットワーク化等につきましては、これまでの経緯でやはり医療資源の情報でしたり、医療機関の関係、また費用負担の問題もあって、それぞれの地域でいろいろと今構成されてきて、それが地域で確立されてきているというような状況がございます。

ですので、一律同じというよりは地域、地域でちょっと事情が違ったり、やり方が違っているというようなことではありますけれども、そういうことで進んできているというような状況も伺っておりますので、まさに優良事例等を共有しながら、地域にかなったようなやり方というのができるだけ進められるような形で、行政ですとか他の医療機関と連携していくことが必要なのかなと思っております。

○瀧上清会長 どうぞ。

○神田謙一委員 局長おっしゃるとおりかなというふうにも思います。ただ、多分今後の部分、国の財政状況を見ても、これは局長お示しになったとおり、我々地方はその影響をどうしても受けます。そうすると、財政的な部分でより効率よく進めなければいけなくて、それぞれの今地域にありますけれども、さっき僕言ったとおり、一つにまとめていくほうがトータルコスト的には安くなっていくだろうと、それぞれ事情、それぞれの地域の部分、システムありますけれども、その辺の部分を整理して、この段階でこのエリアとここという部分含めて、目指す県全体の部分を一つにしていくというよう

な部分をやっぱり少しでも早く進めるほうが財政的な影響が、今後日本経済どんどん、どんどん伸びていけば良いのですが、制度等を含めて国も経済成長のときの制度そのまんまですから、時代が変わっている部分の中でなかなか変化しにくいところあるので、そこは岩手として先取りの形の中で取組を進める必要があるのかなというふうにも思いますので、よろしくお願ひしたいなと思います。

○瀧上清会長 よろしいですね。

○小原医療局長 なかなか医療局単独でというのは、ちょっと難しい話でございますので、行政のほうが主導になろうかと思ひますし、国も当然DXの推進ということで医療情報につきましては様々な取組を進めるということで伺っておりますので、そういう動向も確認しながら、行政と連携していきたいと考えております。

○瀧上清会長 ありがとうございます。

ほかにございませんでしょうか。

○神田謙一委員 もう一つ。

○瀧上清会長 もう一つ、どうぞ。

○神田謙一委員 中野院長にお聞きしたいのですけれども、今の内容と、今急に始まったわけではないのですけれども、我々も行政の特にトップとしながら、今日瀧上大船渡市長も来られていますけれども、この気仙エリアで我々ができること、行政としてすべきこともそれぞれの2市1町だけではなくて、連携取れる部分というのは多々ありそうだなというふうに実は感じた部分もあります。

そういう部分でいうと、例えば救急の患者数、移送含めて、2次医療圏の中で県外への移送も多いというような部分も含めると、現実的には当地区ですと大船渡地区消防さんとか救急部隊いるわけですけれども、陸前高田市ですと高田の消防組合等、その辺が連携取れるとより効果的だとか、そういう現場において例えば希望といいますか、こういうところがあると住民にとってよりプラスになるなみたいなところがあれば、今でなくていいのですけれども、ご教示いただければ、また我々も検討する必要があるなと思うのですが、よろしくお願ひいたします。

○瀧上清会長 お願ひします。

○中野大船渡病院長 ありがとうございます。当地区は、気仙地域は県立病院が中核病院として大船渡があつて、あとは高田が地域病院、あと住田地域診療所、それから医師会のほうは今日来ていただいておりますけれども、気仙の医師会、歯科医師会、1つしか

ないといえますか、なので非常に連携は取りやすくなっております。行政のほうはどうしてもやっぱり大船渡市、高田市、住田町とあって、それぞれなのです。

こちらとしては、できれば一緒になってもらうと非常にやりやすいところはあるのですが、すけれども、すごく歴史のあることですので、なかなか一緒にはならないのでしょうけれども、それぞれの首長さんが連携していただけるということでしたので、医療に関して一緒に相談しながらやっていければいいと思いますし、あと消防のほうは大船渡と高田と2つあるのですけれども、気仙のメディカルコントロール協議会というのがありまして、常に一緒に病院も交えて、2つの消防署も一緒になって、医師会も一緒になって検討しておりますので、その辺りの連携は非常に大事なのですが、今でも取ってやっておりますし、これからもより連携してやっていきたいなと思っております。

○瀧上清会長 よろしいでしょうか。ありがとうございます。

すみません、私のほうからも。今の神田住田町長さんからお話あったとおりです。とにかくもう少し具体的にいろいろ話も詰めながら、我々もできることをできる限りやっていきたいと思っております。と申しますのもご承知のとおり、気仙圏域の総人口も5万4,000、5万3,000とみるみる激減をしておりますので、10年、20年先に耐え得る医療体制というのは我々もう本当に考えていかなければならないということで、住田の神田町長さん、特に切実な思いもありますので、私たちが陸前高田の佐々木市長も含めて、そういったことも詰めた話もしようということで準備もしておりますので、ぜひ率直な意見交換の機会も作っていただければと思います。

○中野大船渡病院長 よろしく願いいたします。

○瀧上清会長 ありがとうございます。

ほかにございませんか。

それでは、申し訳ありませんが、気仙医師会の会長であります岩瀨先生、一言お願いしたいと思えます。

○岩瀨正之委員 気仙医師会の岩瀨です。

今神田町長からいろいろお話がありましたけれども、なかなか難しいです。総合的に考えると、うまく回すことができるかなと思うと、なかなかいろんな困難が生じてきて、その中で今住田をどうにかしようという委員会が立ち上がっていました。具体的に言うと、訪問看護師さんにある程度の権限を与えてあげて、彼女たちに、ふだんは手の届かない人たちに手を届かせてあげようという、そういう動きになってきていますが、なか

なか法律の問題とか、そういったものが引っかかってきまして、うまく回せるかどうかというのが問題なのですけれども、そのところ医師会として協力してやっていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○淵上清会長 ありがとうございます。

ほかにございませんか。

どうぞ。はい、申し上げます。

○神田謙一委員 岩淵先生、いつも大変お世話になって、ありがとうございます。

先生おっしゃるとおり、我々も国のほうに要望等々しながら、規制緩和的な部分だとか、やっぱり法的に縛られる部分多々あるものですから、そこはやはり先生方それぞれの部分で何ともし難い部分あるかと思えます。そういう部分については、今日県議の佐々木先生なり千葉先生いらっしゃっていますから、今後いろいろまた相談させてもらいたいというふうに思いますので、お力添えをよろしくお願ひしたいということで、一言。

○淵上清会長 ありがとうございます。よろしくお願ひいたします。

ほかにございませんでしょうか。

お願ひいたします。歯科医師会の岩淵先生、お願ひいたします。

○岩淵由之委員 常々県立病院の先生方にはご苦勞をかけて、今日お話聞いてもすごく努力されているのだなというのがすごく聞き取れました。

これからのことで、例えば今気仙地域でくくられているのですけれども、お話にもあったように釜石だったりとか、そういった所と連携していく、人口が減っていくと、やっぱりある程度広い所で連携していかないと何ともならないところもあって、気仙でいうと釜石がやっぱり近い所、県でいうと。そうすると、あともう一つは気仙沼のほうも割合、県は違うので、これはまた話は別になるかもしれないのですけれども。あとは、前々から言われていたのは、やっぱり子供の問題で分娩だったり、そういうのがちょっと釜石とかでできなくなってきたりとかということで、やっぱりこちらのほうに多く来ているという、その辺の医療のバランスのほうをやっぱりちょっと難しいとは思うのですけれども、その辺が充実すると、さらに気仙で子供を生んでみようという若い人たちも増えてくるのかなというところがあると思うので、これは要望になってしまうのですけれども。

あと、医師の確保というところでいろいろ苦勞されているとは思うのですけれども、

その辺のところに関してもお金をやっけて医師を育てるような形、奨学金をやっけてというふうなところも全体としては医師の数は増えているということなので、さらにこの辺も頑張ってもらいたいなという、これも要望になりますけれども、お願いしたいと思ひます。

○瀧上清会長 お願いいたします。

○小原医療局長 ありがとうございます。今まさに、先ほど言ひました県のほうの保健医療計画というのを検討して、令和6年度からののが検討されております。基本的な医療圏というのは、2次保健医療圏といっているのは、先ほど基幹病院が9つあるのですけれども、既に2次医療圏を越えて連携をしなければいけない医療圏というのが例えば周産期だったり精神だったりというのは9つではなく、もう既に4つで動いているというようなことがございます。

今医療の高度化に伴って、疾病事業別医療圏というのを次期保健医療計画で少し検討しましょうということで、9つのほかに、例えばがんですとか、脳血管疾患ですとか、心疾患ですとか、そういうものにつきましては2次医療圏を越えた形の広域化をしましょうというようなことで検討が進められているところでございまして、まさにそういうことで医療の高度化、専門化に対応していきましょうということになっています。そういうような状況も踏まえた上で、今後多分2次保健医療圏というのも見直し出てくると思ひますが、そういう実態に即したような形で医療圏のほうも動いておりますので、そういう形で医療の高度化ですとか人口減少等に対応していくということで、行政のほうも今検討が進められているというような状況でございます。

○瀧上清会長 ありがとうございます。

よろしいでしょうか。ありがとうございます。

ほかに皆さんからございませぬか。

では、気仙薬剤師会の大坂会長さん、一言お願いしたいと思ひますがお休み。

それでは、今日は社会福祉協議会等々からもご出席のようでございます。どなたかご発言はございませぬでしょうか。

よろしいでしょうかといつても、せつかくの機会です。

陸前高田市の社会福祉協議会、佐藤さん、どうでしょうか。一言お願いしたいと思ひます。

○佐藤幸子委員 病院の先生方には日頃から大変お世話になっております。

私、高田社協なのですけれども、普段はデイサービスのほうで働かせていただいております。その前にちょっとヘルパーのほうもやっていたことがありまして、病院のほうには何度か通院の介助のほうで来させていただいておりました。その際に少し感じたというか、思っていたことがあったのですけれども、ちょっとこの場を借りて、すみません。例えば障害の方とか、知的障害とか、精神障害の方は通院の時間、待ち時間が待てないというか、ちょっと飽きてしまったりして、寝転んでしまったり騒いでしまったりする利用者さんがいたのですけれども、そういう際に予約というのはあるのですけれども、ちょっとそういう方の診察を前倒しというか、していただけないかなと、ちょっとそのときから思っておりまして、皆さん待っている中なのですけれども、そういう検討もちょっと考えていただけないかなと日頃思っていたので、すみません、この場を借りて。

○渕上清会長 ありがとうございます。

では、お願いいたします。

○阿部高田病院長 高田病院の阿部です。

本当に貴重なご意見ありがとうございます。やっぱり私らもあまり分かっていないことだと思います。私が分かっていないだけなのかもしれないのですけれども、多分現場の看護師とか外来の看護師とか、その辺から情報とかあったりしていれば、対応とかということに関しては可能だと思いますので、ぜひ戻って検討したり、あとはそういうご意見いただいたりとかということで相談したいと思います。決して少し遅く来たとしても、多分それであまりブーブー言ったりとかというのはないような気がします。本当に対応していないだけだと思いますので。

○中野大船渡病院長 そういった患者さんがすごくたくさんいるわけではないと思いますので、そういう対応をしている病院もあったように聞いておりましたので、当院でも検討させていただきたいと思います。貴重なご意見ありがとうございました。

○渕上清会長 ありがとうございます。

ほかにございませんでしょうか。

それでは、どうぞお願いいたします。

○荒澤裕子委員 高田の女性会の会長の荒澤と申します。

元助産師をしていた立場から、今助産師不足しているという状況を聞きまして、私が退職するあたりも気仙管内、職場が気仙沼でしたから、不足していたのはもちろんなの



ですが、補えていないということが実情が分かりまして、本当に大変なのだなというのが改めて分かりました。

それで、コロナのはしりのあたりに、たしか29週だったと思うのですけれども、コロナの妊婦さんが受け入れてくれるところがなくて自宅で早産して、赤ちゃんが亡くなったという事件がありましたよね。その時に、気仙管内では救急指定病院があるから受け入れてくれると思うのですけれども、今どこの市町村も産科医も不足してしまっていて、救急車呼んでつかまえたまでにはいいのだけれども、それからたらい回しが始まって、なかなか病院にたどり着けないということも多いと思うのです。

それで、そのニュースを聞いたときに、退役助産師といますか、そういう家にいる助産師は何人かいると思うのです。そういう助産師に声をかけていただいて、どうにかできないのかなということもちょっと頭をよぎりました。救急隊員さんも来るかもしれないのですけれども、何もしてもらえなかった、しかも受け入れてもらえなかった、自分で生んでしまった、子供を亡くした、そういうのはいつまでも母親にとってはトラウマとなって残りますので、せめてもし連絡いただければ、そばについて、受入れ先がつかまるまでの間何かはできると思うのです。熱があるとか、そういうこと自体が母体にとってもなのですから、赤ちゃんにとっても非常に危険な状態なので、何かしてあげないと周りとしては、本当に何もしてもらえなかったでお母さんの気持ちが浮かばれないのですので、何かそういうシステムがあればいいのかなと思いました。

○瀧上清会長 ありがとうございます。

お願いしていいですか。よろしく申し上げます。

○中野大船渡病院長 助産師が全国的に少ないということに対してのご意見だったと思いますので、そのとおりに思います。

ただ、うちの病院は、助産師の数は当院の出産数に見合う分おりますので、不足してはおりませんし、あとコロナの妊婦さんも対応する病床を用意していますので、コロナの患者さんも受け入れております。

あと、救急に関しては、うちの病院は救急車は断ること一切ないので、たらい回しという事例は、気仙地区に関しては一切ないと思っております。ありがとうございました。

○瀧上清会長 ありがとうございます。

よろしいですか。ありがとうございます。

皆様方から貴重なご意見を頂戴いたしました。時間となりましたので、ここで質疑に

については打ち切らせていただきます。

次に、議事のその他というところですけども、何かございますでしょうか。

(「なし」の声あり)

○ 瀧上清会長 それでは、以上をもちまして令和5年度気仙地域県立病院運営協議会の議事の一切を終了いたします。大変ありがとうございました。

○ 荒川大船渡病院事務局次長 瀧上会長様、大変ありがとうございました。

## 8 閉 会

○ 荒川大船渡病院事務局次長 それでは、これをもちまして令和5年度気仙地域県立病院運営協議会を閉会とさせていただきます。委員の皆様、本日は長時間にわたりご討議いただき、誠にありがとうございました。